

もったいない！！みんな都会に出ていっちょ
 ～若者の人口流出問題をスポーツで解決する～

高知工科大学 前田研究室 B
 都築 海登 ○藤井 陽平 小段 達也
 岡本 光市 中村 真琴 鈴木 なつ帆

1. 緒言

初めに、現代の日本は多くの社会問題を抱えており、その中の一つに地方から都市部への人口流出がある。都市部への人口流出によって地方では若者が減少し、高齢化社会を促進する形になっている。現在私たちが在籍している高知工科大学では2159名中585名(2016年5月現在)が県内高校出身の学生であり、全体の約6割が県外の高校から入学しているということになる。都道府県別高齢化率をみると、高知県は秋田県に次ぐ全国二位という結果になっており(表1)、2040年には高知県の高齢化率は40.9%に上昇すると予想されている。毎年のように県外の学生が入学しているにも関わらず、卒業後に県外へ流出する人が多いことが考えられる。実際に地元就職率の推移より全国平均と高知県を比べると、大きく下回っていることがわかる(図1)。この結果は、高知県に若者が残っていないと考えてよい。

表 1. 47 都道府県の高齢化率ランキング(2014)

	平成26年 (2014)			平成52年 (2040)	高齢化率の 伸び(ポイ ント)
	総人口(千人)	65歳以上 人口(千人)	高齢化率(%)	高齢化率(%)	
1 秋田県	1,037	339	32.6	43.8	11.2
2 高知県	738	237	32.2	40.9	8.7
3 島根県	697	221	31.8	39.1	7.3
⋮					
47 沖縄県	1,421	270	19	30.3	11.3

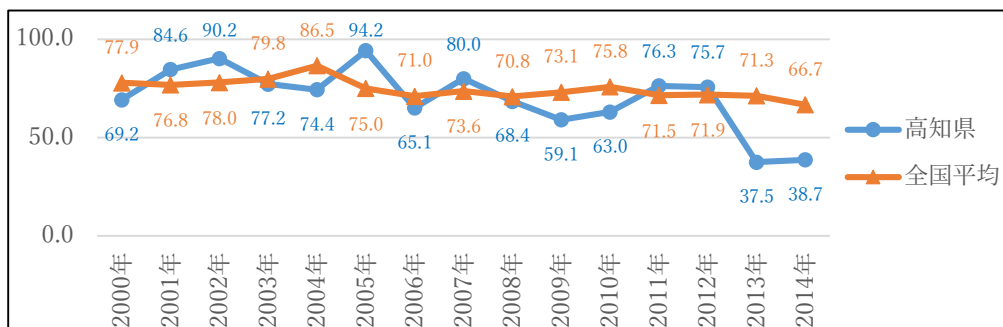


図 1. 高知県における地元就職率の推移

一方で、近年では自然資源（海、山、河川など）を活用したスポーツイベントを開催し地域を盛り上げようとするケースが増えている（ex. カヌー・サーフィン・サイクリング）。このような自然資源は田舎と呼ばれる地域に豊富に存在しているため、今後もその取り組みに注目が集まっている。しかし、若者の流出の観点からみると、これらのスポーツイベントをきっかけに、若者を定住させるような効力は決して高くはなく、一時的と言わざるを得ない。スポーツ庁が、今後も地域において、自然資源を活用したスポーツの推進を行うこととしている中で、長期的・直接的に人口流出問題にアプローチができるイベント活用の方法は無いのであろうか。

高知県においても、サイクリングや、ラフティングという、自然資源を活用したスポーツイベントがあり、多くの人を県外から誘客することに成功している。私たちは、高知県が全国各地に先駆けて人口流出問題が深刻であると同時に自然資源が豊富にあるという特色を有していることに着目し、これらのスポーツイベントによって人口流出問題を解決する策を検討していくこととした。

2. 研究

（1）目的

先述の通り、都市部への人口流出に歯止めをかけるには、若者の在住者を定住させることが一つの対策になるのではないかと考え、若者が実際にどのようなニーズを持っており、何を満たせば卒業後も県内に留まるのかを明らかにする。さらに若者が地域にどのような魅力を感じているのかを知ることを目的とする。

（2）方法

大学生に対するアンケート調査の実施

－期間 2017年7月

－対象 高知工科大学 経済・マネジメント学群 2・3回生 101名

－アンケート項目

- ・大学卒業後、高知県に残りたいと思いますか？
- ・残りたくないと感じた人は、何があれば残りたいと思いますか？（複数回答可）
- ・あなたの思う高知の魅力は何ですか？

（3）結果

アンケート調査の結果より、大学卒業後、県内に残るのではなく県外へと出ていくことを希望する人が多いということが分かった（図2）。したがって高知では、実際に若者の流出が起きようとしている現状が明らかになった。

また県外への進出を希望すると回答した人に、何があれば県内に残りたいかと質問したところ、企業・仕事、公共交通機関といった回答が上位を占めていた（図3）。加えて高

知在住の大学生は高知県の自然に魅力を感じているということも明らかになった(図4)。

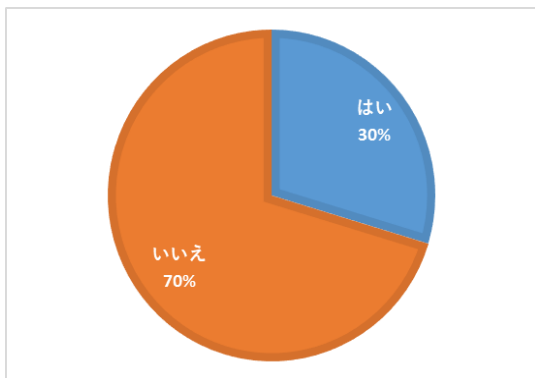


図2. 大学卒業後、高知県に残りたいと思うか？

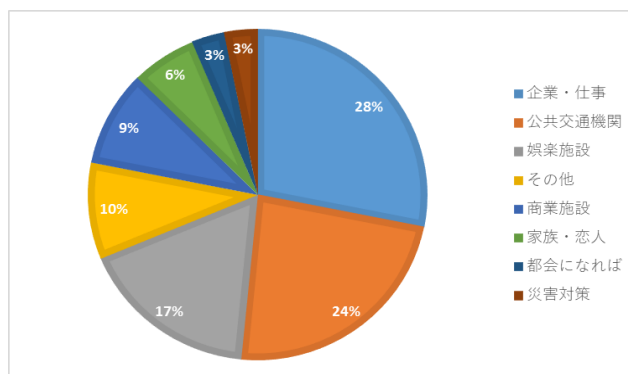


図3. 高知県に何があれば残りたいと思うか？

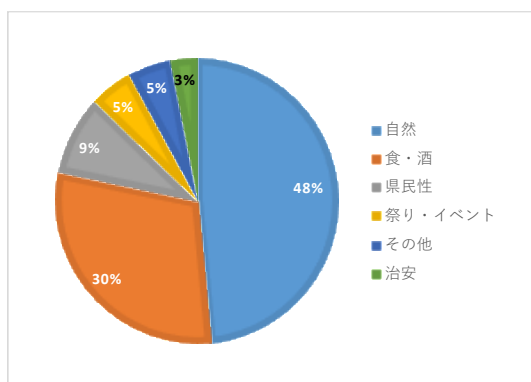


図4. 高知の魅力

(4) 考察

アンケート調査の結果より、やはり卒業後に高知県に残りたいと考えている人は少なく、県外へと出ていきたい人の方が多いことが分かった。

しかし、企業・仕事、友人・恋人の存在といったものを満たしていくことにより、若者の流出を食い止められる可能性がある。また、先ほどの研究でも明らかになったように高知を含めた地方の魅力として自然が挙げられる。この現状の自然資源を活用したスポーツにニーズを満たすイベントを組み合わせることで、若者の人口流出を食い止めることができるのではないだろうか。

3. 提言 『自然資源×スポーツ×婚活・就活 ⇒ 若者定住』

緒言でも述べたように、近年自然資源を活用したスポーツのイベントが様々な地域で行われており、高知県も同様に、サーフィンやラフティング・サイクリングといったレジャースポーツのイベントがたくさん行われている。私たちはこのようなスポーツの中からラフティングというレジャースポーツが自然を一番満喫できると考えた。ラフティングとは、川の急流を、ラフトという乗り物を使用し川下りを行うレジャースポーツである。

ラフティングの醍醐味として、清流を身近に体感することができ、一つのラフトという乗り物に同乗することで一体感が生まれ、スリル、楽しいなどの心理・生理的感情を共有

でき会話が弾み、より親密な関係を築くことができる。以上のことから、このラフティングに若者が求めるニーズを掛け合わせることによって、人口流出対策の一つとなる提言をしていきたい。このようなラフティングの特徴を若者が地方に残りたいと考える家族や恋人の存在、企業や仕事といったものに関連する婚活や就活というイベントに結び付けることで、イベントの効果が通常より大きくなり、さらなる成果を見込めるのではないだろうか。

(1) ラフティング婚活

高見ら (2015) によると、スポーツ婚活の効用として、事前よりも事後の方が「気分」の安定度と活性度が比較的高い状態になることを示した。普段味わえない大自然の中で、一体感・スリル・楽しいなどの経験ができるラフティングを婚活と組み合わせることは、より参加者の気持ちを活性化し、安定に向かわせる効果があることがわかる。

(2) ラフティング就活

スポーツ就活の効用としては、仮に企業の人事担当者と就活性で共にラフティングを経験した後に、質疑応答などを行うと、初対面の時より緊張感などが少なくなり、より自然体で行えると期待できる。これまでの就活の概念を取り払い、地元の魅力である大自然の中でこのような試みを行うことは、地元で就職したいという参加者の動機を刺激するものになるのではないかと考える。

このように、婚活や就活などのイベントにラフティングを組み合わせることで、より魅力的なイベントにすることができ、その結果、若者が地方に残りたいと思うニーズを満たすことができる。これにより、地方の人口流出を軽減することができ問題解決に繋げることができるのではないかと考える。高知県の場合は、ラフティングを例に取り上げたが、他府県でもその地域特有のスポーツを用いることで同じ効果が期待できるのではないかと考える。例えば、降雪地方ではスキーやスケート、山岳地方では、登山やロッククライミング等を組み合わせることが効果的である。確かにスポーツによって得られる効果は様々であるが、どれも魅力的な効果を生み出し地方の人口流出の解決に繋がるのではないだろうか。

<参考文献>

・新卒者就職・進学/時系列推移-RESAS 地域経済分析システム

<https://resas.go.jp/#/39/39201> 人口減少が地方のまち・生活に与える影響

<http://www.mlit.go.jp/hakusyo/mlit/h26/hakusho/h27/html/n1122000.html>

・高見彰・水沢利栄・勝木洋子 (2015) スポーツが効果的な婚活イベントに果たす役割-スポーツ婚活参加者の期待と満足に焦点をあてて-, 2015 度笹川スポーツ研究助成, 127-134.

・都道府県別高齢化率の推移 (内閣府平成 27 年度年調べ)

http://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2017/html/gaiyou/s1_1.html